

# バックワードデザイン（逆向き設計）を使った 高校「英語コミュニケーションⅠ」の授業づくり

萩原 一郎

## 1. はじめに

本稿では、コミュニケーション英語Ⅰ（現行学習指導要領下での英語コミュニケーションⅠに相当）の教科書を使いながら、（１）教科書の各パート（１～２時間単位の授業）の最後にretellingやsummary writingなどの活動を位置づけ、生徒がそれに無理なく取り組めるように授業内の各指導過程を積み上げていくというバックワードデザイン、（２）単元指導計画に基づき、単元の最終的な言語活動（パフォーマンス課題）をゴールに設定し、単元の授業設計を行うバックワードデザイン、の２つについて紹介していく。

バックワードデザイン（逆向き設計）とは各授業、単元、いくつかの単元のまとまりなどそれぞれのゴール（到達目標）を見据えたうえで逆算して授業をつくるという考え方である。

### 〈Backward-designによるTop-downの授業設計〉

当該レッスンや単元全体の指導目標の設定



必要な時間配当と各授業の目標設定及びその活動化



個々の単位授業（本時）の目標を達成するための指導過程の設計

のような順序で授業を設計していくことになる。（高橋，2021，p.49）

## 2. 1～2時間単位の授業におけるバックワードデザインーPart 1を例にして

高校の英語教科書における本文を扱う際に、私が１つのモデルとして示しているのは以下のような指導手順である。

oral introduction ⇒ explanation ⇒ reading aloud ⇒ story retelling ⇒ summary writing [assignment]

これを逆向きにしてみると以下のようなになる。（本稿で扱う部分を太字にしてある）

summary writing [assignment] ⇒ **story retelling** ⇒ **reading aloud** ⇒ explanation ⇒ **oral introduction**

こうしてみると、各パートの最後に位置している **story retelling** を生徒ができるようになるということが指導目標であることが明確になる (**summary writing** は授業内で終えた **story retelling** (以下, **retelling**) の内容を課題として生徒各自が家で書いてくるものなので、ここでは省略してある)。**retelling** では、絵・写真やキーワードを使いながら自分のことばで教科書の内容を話すことが求められるため、その直前の教科書の音読活動では、さまざまな方法 (**read and look up**, **blank reading** など) を用いながら教科書英文の刷り込みを行う必要がでてくる。特に、**retelling** で生徒が使用する可能性が高い英文については、負荷をかけた音読指導をすることが不可欠である。教科書内容を口頭により英語で導入する教師の **oral introduction** では、「生徒が行う **retelling** 活動のモデルを示す +  $\alpha$  (背景知識など)」というスタンスで生徒に語りかけていきたい。さらに、**retelling** で使えるような表現、英文はただ聞かせるだけではなく、クラス全体、そして生徒数名にも繰り返し言わせて (**mim-mem**<sup>1</sup> : **mimicry memorization**) 定着させることで後の活動につながっていくことが期待される。**oral introduction** における板書計画は、**retelling** で使うワークシートと理想的にはほぼ同一のもの、あるいは似かよったもので構成していくことも重要である。

このように、ひとつのパートで行う授業をバックワードな視点で設計してみると、授業のゴールが明確になるので、その目標に向けて授業内の各指導過程に有機的につながりをもたせていくことが必須となることが明らかになる。以下では、教科書本文を使いながら逆向き設計の授業設計について具体的に考察していきたい。

#### 【教科書本文】 (p.84)

### Lesson 7 *Furoshiki* – The Magic Cloth

#### Part 1

Do you know Wangari Maathai? She was a Kenyan environmentalist who received the Nobel Peace Prize in 2004. When she came to Japan in 2005, she was impressed by the word *mottainai*. It expressed in one word her ideas about respecting the environment. Ever since, it has been spreading around the world.

There are many eco-friendly customs in Japan. Using *furoshiki* is one of them. A *furoshiki* is a square piece of cloth that you use to wrap things in. If you use a paper bag, you may throw it away after using it. Maathai said, “Every time you use paper, remember that it is a cut tree.” Unlike paper, *furoshiki* can be used over and over again.

#### 《 New words 》

Wangari Maathai, Kenyan, environmentalist, receive(d), Nobel Peace Prize, impress(ed), express(ed), respect(ing), spread(ing), eco-friendly, custom(s), square, unlike

<sup>1</sup> オーラル・アプローチ (Oral Approach) の原理に基づく指導法における指導技術の一つ。新しく導入された教材を正しい模範についてまね (**mimicry**) をさせ、正しく発表できるように記憶 (**memorization**) させるための訓練方法である。(小川他, 1982, p. 369)

《 New phrases 》

ever since, throw ... away, every time ..., over and over again

（使用教科書は *Power On Communication English I*（2014）東京書籍株式会社）

## 2.1 retelling

教師がまず最初に取り組むべきことはPart 1のゴール設定である。つまり教科書本文に関する retelling の原稿例を該当単元を扱う前に作成しておくことである。（以下、授業内での他の活動との関連が分かりやすいように便宜上①から⑦までの番号をふってある）

- ① Wangari Maathai was a Kenyan environmentalist.
- ② She received the Nobel Peace Prize in 2004.
- ③ When she came to Japan in 2005, she was impressed by the word mottainai.
- ④ Ever since, it has been spreading around the world.
- ⑤ Using furoshiki is eco-friendly.
- ⑥ If you use a paper bag, you may throw it away after using it.
- ⑦ Unlike a paper bag, a furoshiki can be used over and over again.

それが完成したら、retellingのための生徒用ワークシートを作成する。その際に、文字情報とvisual aidsのバランスをとることが大切で、文字のみあるいはvisual aidsのみにならないように注意する。下線を引いた語句はretellingの際に必ず生徒に使ってもらいたいもので、ワークシート中にも同様な形で示してある。

### 【retellingのためのワークシート】

\*（１）マータイさん、そして（２）*furoshiki*とpaper bagについて二つを対比しながら説明してみよう。（３）最後にその内容に関する自分の意見を表現してみよう。

（１）Wangari Maathai was a Kenyan environmentalist.

Wangari Maathai の写真

アフリカ大陸の地図  
（Kenyaの位置をハイライト）

Wangari Maathai (1940-2011)

Kenya

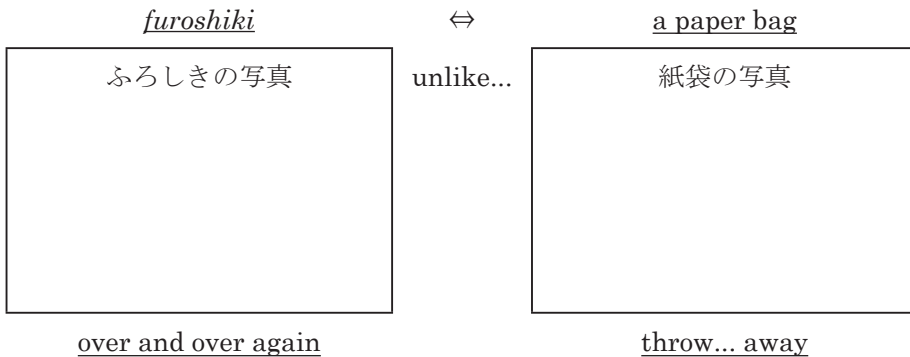
◇ 2004 the Nobel Peace Prize

◇ 2005 Japan

↓

impressed / mottainai / spreading

(2) Using *furoshiki* is eco-friendly.



(3) My opinion: I think it is important .....  
 ..... .

## 2.2 reading aloud

chorus reading ⇒ buzz reading (2回) ⇒ individual reading ⇒ read and look up  
 ⇒ blank reading

音読では、英文の意味を考えながらその内容を聞き手に伝えることを重視する。まずは **chorus reading** で教師のガイドに従って、英文をきちんと音声化できるようにし（個々の発音、音の連続などについても指導する）、次に教師のガイドなしに生徒独力で読む **buzz reading**、一文ずつ生徒個人に読ませる **individual reading** と進行するのが定番である。

その後、英語を顔を上げて言う **read and look up**、そして **blank reading**（穴あき音読）と徐々に負荷を上げながら、生徒の頭の中に英語が残るようにする。

ここでは、最後の2種類の音読活動について逆向きに示してある。両者とも、**retelling** で使用する可能性が高い英文を中心に構成する。

### 《blank reading》

Do you know Wangari Maathai? ①② She was a [ ] environmentalist who received the Nobel [ ] Prize in 2004. ③ When she came to [ ] in 2005, she was [ ] by the word [ ]. ④ Ever since, it has been [ ] around the world.

⑤ Using *furoshiki* is [ ]. ⑥ If you use a [ ] bag, you may throw it [ ] after using it. ⑦ Unlike a paper bag, a *furoshiki* can be [ ] over and over [ ].

### 《read and look up》

\*practice the following sentences:

①② She was a Kenyan environmentalist who received the Nobel Peace Prize in 2004.

- ③ When she came to Japan in 2005, she was impressed by the word *mottainai*.
- ④ Ever since, it has been spreading around the world.
- ⑥ If you use a paper bag, you may throw it away after using it.
- ⑦ Unlike paper, *furoshiki* can be used over and over again.

## 2.3 oral introduction

oral introductionでは、教科書本文の内容をパラフレーズするなど分かりやすく英語で導入するだけでなく、教科書には書かれていないWangari Maathaiが取り組んだ“Green Belt Movement”についても説明し、パート1の内容を生徒が深く理解できるように配慮する。最終活動のretellingに生徒がよりスムーズに取り組めるように、意味が分かった語句や英文を導入段階でもmim-memしておく。retellingで言えるようになってもらいたい英文のうち、②③④⑦については英文単位で生徒にリピートさせ、①⑤⑥については英文を聞かせるとともに、その中のキーワードのみについてmim-memを行う。

### 【Part 1に関するoral introductionの原稿】

OK. let's start today's lesson. We are going to start reading a new lesson today. Please look at this picture. *Do you know who this is?* Yes, this is **Wangari Maathai**. She was born in **Kenya** in 1940. So she was **Kenyan**. In the 1970s, many trees were cut down, and many forests were destroyed in Kenya. Maathai thought about what she could do to change this situation. Then, in 1977, She started planting young trees with local Kenyan women. Since then they have planted millions of trees across Kenya. This project is called the **Green Belt Movement**. Maathai was always thinking about the environment. She felt it is important for everyone to have clean air, clean water and good land. ① She was an **environmentalist**. Because she worked hard for the environment, ② Maathai **received** the **Nobel Peace Prize** in 2004.

When Maathai came to Japan in 2005, she heard some Japanese people using the word *mottainai*. If Japanese people use something just once, and then throw it away, they say *mottainai*. She soon came to love the word. She thought, “Wow! *Mottainai* is a great word! I love the word!” ③ She was **impressed** by the word *mottainai*, so **every time** she had a chance to make a speech, she said that the idea *mottainai* was very important to everyone in the world. Maathai died in 2011. However, the word *mottainai* is still used not only in Japan but also around the world. ④ **The word *mottainai* has been spreading around the world since 2005.** Now *mottainai* is a kind of international slogan.

This picture was taken when Maathai visited Japan in 2006 for the second time. *Can you see what she was holding?* Yes, it is a *furoshiki*. *Have you ever used a furoshiki before? What is a furoshiki made of? Is it made of paper?* No, it is made of cloth. *What shape is a furoshiki? Is it round?* No, it is **square**. *What do you use*

*a furoshiki for?* We use a *furoshiki* to wrap things in. So a *furoshiki* is a square piece of cloth that you use to wrap things in. *How many times can a furoshiki be used?* Yes, a *furoshiki* can be used many, many times. ⑦ **It can be used over and over again.** ⑤ So a *furoshiki* is **eco-friendly**. ⑥ However, **unlike** a *furoshiki*, if you use a paper bag, you may **throw** it **away** after using it. A paper bag, which is made of wood, is not eco-friendly.

Now *furoshiki* have many good points. One good point is that they are eco-friendly. What are their other good points? Read the text of Lesson 7 through by yourself, and fill in the blanks in the text.

注) 太字はmim-memを行う英文または語句。斜体字はQ & Aなど生徒と英語でやり取りをおこなう質問。□ は新出語句を示す。

本教科書の主な対象校は中堅校であり、学んでいる高校生の中には中学校で学習したことが十分に定着しておらず、英語に対して苦手意識をもつ生徒も少なくないと推察される。以上のように、retellingにおける到達目標を定め、逆向きに授業設計を行い、reading aloudやoral introduction の中で同じような語句や英文を繰り返し口に出すことによって、英語が自然と生徒の頭の中に残っていくことが期待される。retelling自体は決して易しい活動とは言えないが、バックワードデザインを用いて授業設計をすることで、生徒が大きな困難を感じることなく取り組める活動になるのである。

### 3. 単元指導計画におけるバックワードデザイン

Lesson 7の単元指導計画では以下のような内容で8時間配当とした。

#### ≪単元指導計画≫

第1時	題材 ( <i>furoshiki</i> ) についてのやりとり, Part 1の導入, レッスン全体の英文の通読, 説明, 音読
第2時	Part 1の復習, 教科書を使った言語活動 (retelling), 文法事項についての練習
第3時	Part 2の導入, 説明, 音読
第4時	Part 2の復習, 教科書を使った言語活動 (retelling), 文法事項についての練習
第5時	Part 3の導入, 説明, 音読
第6時	Part 3の復習, 教科書を使った言語活動 (retelling), 文法事項についての練習
第7時	単元についてのまとめ
第8時	パフォーマンス課題

Lesson 7の本文と文法事項は3つのパートからなり、一つのパートに2時間を配当する。第7, 8時には単元についてのまとめを行うが、できるだけ教科書内にある言語活動をもとに生徒にパフォーマンス課題を与える。

それでは、これをバックワードデザインで授業構成を考えてみよう。まず、第8時に生

徒に与えるパフォーマンス課題として何を提示し、それをどう評価するかをこの課を扱う前に考え、決定しておく必要がある。その際、教科書内に提示されている最終的な言語活動が自分の教えている生徒たちに適合したものであるかを検討し、使えるようであればそのまま、あるいはアレンジして使うとよい。

### 3.1 教科書に掲載されている言語活動をパフォーマンス課題として使う

まずは課末に掲載されている言語活動をそのまま使用する場合である。教師が新たにパフォーマンス課題を考案するには、多大な時間と労力が必要であるし、同じ科目を複数で担当している場合は、教科担当者間の調整も必要になってくる。教科書に用意されたものを使うとその手間が省け、気軽に組み組めるという利点がある。もっとも、教科書の編著者が作成した活動はこの教科書を使用している平均的な高校1年生を想定しているため、自分が教えている生徒たちにうまく適合するかどうかは分からない。多少の微調整が必要になってくることが多い。

#### 3.1.1 プロセスを visual aids を使いながら口頭で説明する

教科書の課末(p.91)には、“Communication”として spoken interaction の活動, “Challenge!”として writing と speaking を統合した活動が提示されている。

##### Communication

◎「手順を示す」表現

I'll show you how to wrap a box with this *furoshiki*.

First [Firstly], spread out the *furoshiki*.

Second [Secondly], place the box on it.

Third [Thirdly], tie the ends together.

##### Conversation

上の表現を使って、対話してみましょう。

A: Will you tell me how to make *tamagokake-gohan*?

B: Well. It's very easy. \_\_\_\_\_, break an egg over rice. \_\_\_\_\_, add some soy sauce to it. \_\_\_\_\_, mix it all together with chopsticks.

A: OK. I'll try it tomorrow morning.

ここでは、First, Second, Thirdなどの「手順を示す表現」と命令文を使いながら順番に説明していく方法に焦点をあてている。

この言語活動は本課のパート2を踏まえたものであるので、このパート（単元計画の第4時）を扱う際には、まずふろしきの使い方を順番に言えるようにしておくことが必要になってくる。具体的には、第4時のretellingの活動の中に、必ず以下の太字で示される英文を入れておくか、あるいは、この部分に焦点をしばって生徒が言えるようにしておくことが重要である。その際、実際のふろしきを用意して、いくつかのものを包む動作を伴ったものにしていきたい。

一方、課末の“Conversation”を扱う際には、下線部にdiscourse markersを補いながら、ペア活動で単に対話文を読み上げるだけということにならないように注意したい。卵

かけご飯の作り方については以前に教科書の Lesson 2 Part 2 で扱ったことをふまえて、それぞれのステップを表す 3 枚の picture cards を示しながら、ペア活動においてパートナーに説明できるようにする。

さらに発展させるためには、教員側で別のものを提示するか、生徒に説明するものを決めさせるなどして、その手順を説明させることができる。生徒にとっては自由度が生まれ、より前向きに取り組むことが可能になるはずだが、手順を説明する際に使用する参考語句を具体的に示すなどの援助が必要になる。

【教科書本文】(p.86) (太字は筆者)

**Part 2**

Why do we call that kind of cloth a *furoshiki*? Of course, *furo* means “bath” in Japanese. *Shiki* means “to spread under something.” In the old days, Japanese people went to a public bath and spread these cloths under themselves when they took off their clothes. Then they wrapped their clothes in them.

If you have several things to carry, you need something to hold them. **I can tell you what you should do. First, spread out a *furoshiki*. Second, place your items in it. Third, tie the ends together. Now you are all set.**

Even if your items are in different shapes and sizes, a *furoshiki* can hold them all. You can wrap almost anything with a *furoshiki*. That is why *furoshiki* are so handy.

3. 1. 2 環境保護のためにできることをまとまりのある英語で書き、発表する

**Challenge!**

Tool Boxを参考にして、次の文に続けて私たちが環境保護のためにできる身近なことを3つ、50語程度の英文にまとめ、グループで発表してみましよう。友達の意見でよいと思ったことを3つ、日本語でメモをとってみましよう。

To preserve the environment, we should do these three things.

First, \_\_\_\_\_.

Second, \_\_\_\_\_.

Third, \_\_\_\_\_.

If we do these things every day, we can preserve the environment.

Tool Box	bring our own bags with us / don't leave water running / turn off the light[an air-conditioner, a heater] when we leave a room <small>エ ア コ ン                      ス ト ー プ</small>
----------	---

環境保護について自分に取り組める身近なことについて、50語程度の英語にまとめ、発表する活動である (p.91)。まとめた英語を書いて、それをもとに話すという技能統合

的な活動になっている。これは3.1.1で示した“Communication”の発展形となっている。教科書ではtopic sentence, concluding sentenceが与えられており、生徒はTool Boxにある語句を参考にしてbodyの部分を補うことが求められている。自分のアイデアを上で学んだ手順を表す表現を使いながら表現していくことになる。

この言語活動は本課のパート1を踏まえたものである。このパート（単元計画の第1, 2時）を扱う際には、次のようなことをやっておきたい。第1時のoral introductionにおいて、環境問題に関するエピソードをまじえておく（本稿の2.3にある例では、Wangari Maathaiが開始した“Green Belt Movement”の取り組みの内容とこの運動をはじめた背景について説明することと、パート1の内容をふまえたうえで第2時に行うretellingで教科書内容を説明するとともに、その内容に関する意見を1文でもいいのでつけ加えさせておくことである（本稿2.1参照）。書いたあとのグループワークにおいては、原稿の読み上げにならないように、事前にread and look upなどの音読練習を繰り返すとともに、3つの提言に関するvisual aidsを見せながら説明するようにする。

一方、教科書が用意したフレームでは、3つの内容が環境保護という点ではつながっているものの、お互いに関連がなく深まりが生まれにくいという欠点がある。これを解消するためには、取り上げる項目を一つに絞り、それについて具体例をあげたり、補足説明を加えていくということが考えられる。パート1でそれを意識して、oral introductionなどで背景知識や教科書の行間を埋めるような情報をあげておく生徒が取り組むきっかけとなるだろう。以下はパート1のoral introductionの内容に関連づけてまとめたものである。

I'd like to talk about disappearing rainforests. Rainforests cover only 6% of the world because we have cut down the trees to make things such as paper and wood, and to use the land for farming. If we continue cutting down trees, there will be no rainforests in the near future. There are a lot of plants in rainforests, and they provide us with oxygen. I suggest you save trees by recycling paper. Also, when you buy paper, you should buy recycled paper. One small action will make a difference!

## 3.2 教科書にはない言語活動をパフォーマンス課題として使う

### 3.2.1 本文で扱われているふろしきの3つの利点を説明する

教科書のパート3の最終段落には、まとめとして以下のような記述がある。これを活かして、ふろしきのもつ3つの利点(eco-friendly, handy, beautiful)について英語で説明し、それを書くことでまとめることができる。一つの例として、*Furoshiki are eco-friendly. / Furoshiki are handy. / Furoshiki are beautiful.*ではじめて、それぞれの理由を詳しく口頭で説明したり、書いたりするとよいだろう。3つすべてについて個人レベルで説明することが困難が予想される場合には、3人グループをつくり、リレー方式を用いて順番に口頭で説明するとよい。2.1にある例は最初のeco-friendlyについてまとめたものである。

この活動を最終活動に設定する場合は、各パートを扱う授業（第2, 4, 6時）におけるretelling活動で、ふろしきのもつ利点について簡潔に説明する活動を入れておくこととよい。第7, 8時においては、それらをまとめて復習し、discourse markersなどを用いて全体の構成を整えるだけでよい。

【教科書本文】(p.88) (太字は筆者)

Part 3

We can say that some *furoshiki* are works of art. Some have a family crest in the corner. If you wrap a square thing in it, the design will end up in the top center. Others have four different colors or designs in the corners. These *furoshiki* look most beautiful after something is wrapped in them and their ends are tied.

As you can see, *furoshiki* are eco-friendly, handy, and beautiful, so why don't you try using them? You will soon realize their good points. The time when *furoshiki* are popular throughout the world may come in the near future.

3. 2. 2 日本文化について説明する

教科書ではLesson 7のテーマを「日本の伝統文化、ふろしき」と設定している。本文中のふろしきの記述を参考にしながら、教師の提示する日本文化、または生徒が選んだ日本文化について英語で紹介文を書いてまとめ、それを発表させるということも考えられる。

この活動を最終的な言語活動に設定する場合は、各パートを扱う授業（第2, 4, 6時）において、ふろしきを外国人に紹介する際に使えるような表現をマークさせたり、retelling活動においてふろしきについて簡潔に説明する活動を入れておくといよい。第7, 8時においては、それをもとにふろしきについての紹介文を50語程度でまとめることが第一歩である。次に、それをモデルにして、参考語句などを与えるなど援助をしながら、別のものについて英語で説明する活動に移行する。最初から新たなものに挑戦させるのではなく、教科書の記述をもとに既習のものについてまとめることからスタートすることが重要である。

I'm going to tell you about *furoshiki*. A *furoshiki* is a beautiful square piece of cloth. It is used to wrap things in. *Furoshiki* are eco-friendly because they can be used over and over again. In addition, *furoshiki* are handy. You can wrap almost anything with a *furoshiki*. I hope they will be popular throughout the world. (58 words)

ここまでの最終的な言語活動を行うのに必要なことをバックワードデザインの観点から簡単にまとめておく。

最終的な言語活動	各パートを扱う際にやっておくべきこと
卵かけご飯のつくり方を順番に説明する	教科書Part 2にあるふろしきの使い方を口頭で言えるようにしておく
環境保護のためにできることを50語程度の英文にまとめ発表する	教科書Part 1を扱う際に、oral introduction内で“Green Belt Movement”について説明しておくとともに、Part 1の内容について環境保護に関して大切だと思うことを1～2文で書き、発表する
ふろしきの3つの利点について説明する	教科書の各パートでふれられている利点について英語で簡潔に説明できるようにしておく
日本文化について説明する	ふろしきについて外国人に説明する際に使えるような表現を各パートから抜き出すとともに、簡単に説明できるようにしておく

## 4. おわりに

バックワードデザインを使うことで、1つのパートを扱う際にとりあえず本文の音読を数回やって終え、次のパートに進んでしまう、また、単元を扱う際に時間が足りないので、教科書にある単元内の最終的な言語活動は取り組まずに飛ばしてしまうなどということを防止することが可能になる。また、最終活動を行う授業でのみ、生徒が英語を話したり書いたりする活動を行う一方、教科書本文を扱うふだんの授業ではあまり英語を使用する機会がなく、両者が切り離されてしまうという状況では、パフォーマンス課題は成功しない可能性が高い。このため、教科書の各パートを扱う際にも生徒が英語を使用する機会が増加するはずである。

本稿で触れられなかったが、複数の単元をまとめた大きな言語活動（例えば、各学期の最後に行うまとまりのある活動）を構想し、中期的に授業設計を行うこともよく行われている。まだ高校では本文理解や教師による説明に多くの時間がとられ、その結果、言語活動を行う機会が中学校に比べると少ないとされる。バックワードデザインを用いることで高校の教室においてももっと多くの言語活動が行われることを期待したい。

## 謝辞

本稿のうち、Part 1の学習指導案に関しては、2014年度 ELEC 同友会英語教育学会サマーマークショップにおいて私が行った高校の体験授業が基盤となっており、それを一部改変したものである。学習指導案作成にあたっては、高校のアドバイザーの皆さんからたくさんの方の有益なアドバイスをいただいたことに感謝したい。

## 付記

本稿における教科書本文の利用に関しては、一般社団法人教科書著作権協会より許諾を得ている。

（許諾番号 第20-62号）

---

## 【参考文献】

- 小川芳男・小島義郎・斎藤次郎・若林俊輔・安田一郎・横山一郎（1982）『英語教授法辞典 新版』三省堂
- 奥村好美・西岡加名恵（2020）『「逆向き設計」実践ガイドブック 『理解をもたらしカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する』日本標準
- 高橋一幸（2021）『改訂版 授業づくりと改善の視点 小と高とをつなぐ新時代の中学校英語教育』教育出版
- 萩原一郎（2021）「50分の授業をどう組み立てるか」『新英語教育』2021年4月号 高文研
- 本多敏幸（2022）『新・若手英語教師のためのよい授業をつくる32章』教育出版
- 浅見道明他（2014）*Power On Communication English I* 東京書籍株式会社